

教育課程論	2年・前期	2単位 30時間	准教授 堤ひろゆき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	37011242

1. 授業のねらい・概要

学生は、現在の学習指導要領の特徴とそこで目指されている学校教育像を理解したうえで、現代のさまざまな教育問題に対して学校教育が果たすべき役割について、具体的なカリキュラム開発の方法論に基づく考察を行えるようになることを目指す。そのため、教育課程の意義と役割および現代的課題を概観した後、教育課程編成の方法論や学習指導要領の歴史的変遷について解説する。基礎的な知識と概念の修得を進めつつ、実際の事例に基づいて、カリキュラムについての理解を深め、自身の言葉でも表現できるようになる。

2. 学修の到達目標

1. 教育課程編成の方法論や教育評価のあり方、学習指導要領の変遷を学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-1)
2. 現在の学習指導要領の特徴などを学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-3)
3. 現代のさまざまな教育問題について、教育課程という観点から学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-5)

3. 授業の進め方

レジュメおよび参考資料を配布し、基本的には講義形式で進めていく。また具体的な教育実践を扱った映像資料や文献などを紹介し、その内容について受講者全員で議論する時間も多く設けたい。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、調査学習、グループワーク、対話・議論型授業を用いる。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	教育課程の意義と役割	講義	予習：「カリキュラム」の語について調べ、新しく気付いたことをメモしておく。 復習：中学校学習指導要領を用意し、内容構成を確認する。（以下、復習は小レポートの課題を示す。）	堤ひろゆき
2	現代の教育問題と教育課程①：学力とは何か	講義	予習：「学力」について抱いているイメージを言語化しまとめる。 復習：講義で紹介した学力モデルの特徴と問題点を整理する。	堤
3	現代の教育問題と教育課程②：教師の専門性	講義	予習：教師の専門性とは何か、自分の考えを言語化しまとめる。 復習：講義で扱った教師の専門性を自身が獲得する際に直面するであろう課題を想定し、乗り越える方法	堤

			を考える。	
4	学習指導要領の変遷①：戦後から現在まで	講義	予習：『学習指導要領（試案）』（1958年）をインターネットで入手し、一読する。 復習：学習指導要領の理念の変遷を社会背景との関係で理解する。	堤
5	学習指導要領の変遷②：ゆとりと学力	講義	予習：1989年と1998年の学習指導要領の総説を一読する。 復習：一般的な「ゆとり教育」のイメージと実際の教育課程の目的との不一致を整理し、その理由を考える。	堤
6	2008年学習指導要領の特徴	講義	予習：2008年学習指導要領の総説を一読する。 復習：自分自身の学校経験を規定していた学習指導要領なので、自分自身の学校経験に基づいて理解を深める。	堤
7	教育課程編成の基礎理論	講義	予習：前回までの学習指導要領の内容を振り返り、共通点を考える。 復習：「どの理論がよいか」ではなく「どのように組み合わせれば求める効果が得られるか」を意識して理論について考察する。	堤
8	2017年学習指導要領の特徴	講義	予習：2017年学習指導要領の総説を一読しておく。 復習：英語訳と対照しながら総説を再読し、構造を理解する。	堤
9	教育課程編成の方法①：基本方針と編成上の留意点	講義	予習：教科に基づいて教育課程を編成することの利点と欠点を調べる。 復習：教科横断的な学習を促す教育課程編成の工夫を調べる。	堤
10	教育課程編成の方法②：教育課程実施上の課題	講義	予習：特徴的なカリキュラムを編成している自治体の教育について調べる。 復習：講義で扱った課題を乗り越えるために教員としてできることを考える。	堤
11	教育課程の評価方法	講義	予習：「評価」についての考え方を調べておく。 復習：実際に自分自身が生徒を評価することを想定し、着眼点等を明確化しておく。	堤
12	潜在のカリキュラムと学校文化	講義	予習：「潜在のカリキュラム」についておおまかなイメージを調べておく。 復習：学校の中での「当たり前」を意識化する方法を考える。	堤
13	教育課程編成の現代的課題	講義	予習：ICT活用の事例について調べる。 復習：ICT導入の課題とその対策についてできることを考える。	堤
14	教育課程編成の実例と事例検討	講義	予習：「いのちの教育」について調べておく。 復習：事例の達成と課題点を考える。	堤

15	講義のまとめ	講義	予習： 講義を通じての内容を復習する。 復習： 期末課題の準備を行う。	堤
----	--------	----	--	---

5. 成績評価の方法・基準

受講態度・講義中の小レポートなどによる平常点（30%）、期末課題（70%）の成績を総合的に加味して評価する。

評価対象物は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に、5段階評価で採点する。ルーブリック評価表に関する詳細は、講義内で別途説明する。

6. テキスト・参考文献

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説 総則編』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説 総則編』（いずれも文部科学省のウェブサイトからのダウンロードも可）の最新のもの。参考文献は講義時に配布する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

毎回の講義を受講する前に、1時間30分程度前回の内容を復習しておく。さらに、毎日15分程度これまでの講義内容と関連するニュースを探し、読んでおく。なお、これらの準備学習には合わせて毎週3時間以上を要する。

8. 受講上の留意事項

現実の教育との関連を意識し、常に最新の情報に目配りするとともに、明確な目的意識をもち、教職に就くことを強く希望する学生の受講を望む。

9. 課題に対するフィードバックの方法

課題提出前に解答のポイントを説明する。課題後には講評を公開する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

養護教諭第一種免許状取得のための科目である。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

該当しない。